

万成石の健太が行く No.6



(有)武田石材 (岡山市)

高橋健太

制作されていたことは有名ですが、その前に、万成丁場で作品を制作されていた時期もあったそうです。

朝晩は肌寒くなり、日中は過ぎしやすくなってきました。いよいよ秋本番といった感じです。秋といえば、食欲の秋、スポーツの秋と色々ありますが、今回は芸術の秋ということで、数々の石彫を手

掛け世界的に有名なアーティスト、イサム・ノグチ氏の庭園美術館に先日行ってきました。

イサム・ノグチ氏が香川県の高松市にアトリエを構えて作品を

アトリエには、当時使っていた道具もそのまま残っていました。石屋としては、作品同様に道具も気になりましたが、特に変わったものはなく、普段よく目にするものばかりでした。数々の芸術作品とその見慣れた道具たちが同じ空間にあり、僕は芸術家の創造力というものを肌で感じる事ができました。

いない古民家再生を行い、今の時代を生きる僕たちにも受け入れられるインテリアを自らが造り出すといったところに、やはり時代の先駆者だったことを感じます。

次にイサム・ノグチ氏がこのアトリエで作業をしているときに住んでいた家と庭を見学。この家は、古民家を移築して造られているそうです。家の中には、イサム・ノグチ氏本人がデザインし制作した石のテーブルや照明などがあり、今でもモダンでおしゃれな空間と感じるインテリアでした。

最近こそ古民家再生が流行っていて珍しいことではないですが、今から何十年も前に、誰もやって

僕自身、美術館などに訪れた経験があまりなく、今回の経験は新鮮なものでした。ゆっくりとアートな空間に身を委ねると、何か感性が磨かれたような気がします。石彫に興味のある方は是非訪れてみることをお勧めします。きっとこの壮大な世界観に心を奪われることと思います。ただし事前予約等が必要なので、訪れる際には事前によくお調べ下さい。



【上】丁場で作業をする寺田先生
【左上】寺田先生（左）と筆者
【左下】



石彫を主に手掛ける芸術家といえば、僕にとって身近な芸術家の方がいます。その方は現在、弊社の万成丁場でアトリ工を構え、作品を制作されている寺田武弘先生です。数々の賞を受賞され、岡山県美術家協会の理事をされるなど岡山県ではかなり有名な石彫家の一人です。

本当にたくさんの作品を手掛けており、県内では色々な所で先生の作品を目にする事ができます。また県内だけではなく大分県や兵庫県など県外でも多数の作品を制作されています。去年はオーストラリアにも行かれています。

寺田先生の作品のほぼ一〇〇%が万成石で制作されており、その作品のほとんどをご自身お一人

で制作されています。それだけでもすごいのですが、何とお歳は現在七十七歳。今でも削岩機を持ち、お一人で作品を制作されています。施工時には、寺田先生のお仕事をお手伝いする場合があるので、そのときの先生を見てみると芸術家の熱意をひしひしと感じます。先生の目標は生涯現役。死ぬまで作品を創り続けることだそうです。

僕にはとても真似できそうにありませんが、先生の「石を愛する心」と「仕事への情熱」は学ばなければなりません。まだまだ勉強させてもらいたいと思っています。

最後に、現在石彫をやっている方や石彫家を目指して頑張っている方の中で万成石に興味があり使ってみたいと考えている方がいれば、是非ご一報下さい。できるかぎり協力させていただきます。